

のほろ

- 55年度の市政運営方針 観光・工業・学園都市建設へ「計画実行の年」に2～5P
- 55年度主な事業のあらまし 複合都市の建設を……………6・7P
- 登別市の保育事業 元気で遊んでいます……………8・9P
- 郷土史探訪④ 鶯別川……………10P
- 学校めぐり⑫ 幌別中学校……………11P

○No. 299 ○昭和55年4月1日発行 ○編集発行/北海道登別市/総務部公聴広報課 ○印刷/中西印刷



時を告げる「愛の鐘」

幌別西小学校

時を告げる「愛の鐘」が、いま幌別西小学校の校下に鳴りひびいています。

同校PTA（長堀益久会長）の2年間にわたる精力的な取り組みが実ったもので、3月15日全校児童が見守るなかで待望のメロディーが流されました。

こどもたちに時間を守る習慣を身につけてもらうとともに健やかな成長を願って設置されました。同校PTAでは2年前から「愛の鐘設置委員会」を設け、廃品回収や不用品を持ち寄っての友愛セール、チャリティーパーティーなど創意をこらした事業や行事を行な

い、約180万円の資金を集めました。

3階建て校舎の屋上に設置された「愛の鐘」は、校下の富士町、片倉町、柏木町など半径約1.5kmの範囲に鳴り渡っています。

一日に3回、自動的に30秒前後のメロディーが流れ、曲目は午前7時が「やしの実」、午後5時が「夕焼や小焼」、午後9時が「七つの子」となっています。

同校は、54年度で校舎の新増改築も完成、愛の鐘は新校舎とともに同校のシンボルとなりそうです。

4.1 1980

業・学園都市へ 行の年」に

昭和55年第1回定例市議会が3月3日開会され、開会2日目中浜元三郎市長は、55年度の市政運営の基本方針と予算の概要について説明しました。

これは、市政の6本の柱を軸に重点施策を述べたもので、その要旨は、つぎのとおりです。



学園都市構想については、日本電子工学院専門学校、日本航空大の進出が予定されていますので、今後は早期に完成発足するよう努力します。

市政施行十周年を迎えた登別市は、今後においても限らない発展の可能性を持つ青年都市です。

しかし、景気の停滞が長期化する中で、不況に強い自立型都市への脱皮を図らなければなりません。現在、登別市の将来都市像について、これまでの観光と工業に学園都市建設を加えた「多面的性格を備えた複合都市建設」を目標に登別市総合基本構想を策定しています。

懸案となっています。長期財政計画については、現在審議中の総合基本構想と重要な関連がありますので、基本構想と同時に六月に提示したいと考えています。

今年度は、市債借入をこれまでの約三十%、五億円程度に抑えましたが膨大な債務の償還期に入った関係で緊縮の上にも緊縮の財政運用を図らなければならないのが現状です。

「生活環境と都市機能の充実」、「教育文化施設の整備」を重点に複合都市の初年度として最大の意欲をこめて編成しました。豊かな自然と調和のとれた地方都市への成長を旨とする重大な時期に、不況八〇年代を迎え、ひつ迫した財政状況の中で、社会福祉の充実と、都市環境の整備を図り所期の目的を達成することは決して容易ではありません。

こうした中で住民要望を正確にとらえ、さらに立ち遅れている部分を補い、昨年度に調査計画した基本に従って、心のふれあう福祉

もはや単年度で解消できない財政危機に直面しています。この抜本的対策として、運営委員会ともども審議検討した結果、賦課方式ならびに税率の改定を実施することになりましたので、みなさんのご理解をお願いします。一連の料金改定となりましたがそれぞれの制度運用にあたってはその適正合理化を図るとともに市民福祉の充実に最善の努力を傾注いたします。

（なお、料金改定のくわしい内容については、本紙四月十五日号でお知らせします。）この結果、総予算規模は百三十八億六千四百七十二万五千円となり、前年度予算六月補正後と比較して、伸び率十一%と圧縮予算となりましたが、きびしい経済状況の中で健全財政を維持しながら八〇年代に伸展する市政にふさわしい規模と考えます。

健全な財政運営を

各種料金の見直しを図る

今年度の予算編成にあたり、基本となるものは次の四点です。

●長期的展望に立って、健全財政を主眼とした財政運営を行ないます。

●年間予算主義に徹し、予想される総ての収入と支出を当初予算に計上し、補正予算は最少限度にとどめるよう配慮しました。

●経常経費（燃料費や電気料など）の基準、道や他市の状況をくわしく調べたりえ、受益者負担の原則にてらし、現状に見合うようそれ

その額を改定しました。▽し尿汲取手数料は、車両燃料費の高騰で円滑な運営が確保できない現状、さらに営業用と臨時の塵芥処理と産業廃棄物などの手数料が処理原価に満たなくなりましたので、最少限度の料金改定とします。

▽学校給食費は、諸原材料費の急騰の中、質・量を確保するためやむなく改定となりました。

▽国民健康保険の運営は、前年度一般財源から多大の額の支出を必要としました。受診率の向上で給付費の増大は

市役所機構の一部改革

観光産業の新たな躍進を期して積極的に対応するため、登別温泉町現地に観光部を新設し観光都市登別としての特別対応を図るため改正条例の提案をいたしました。

しかし、機構の膨脹、定員の増は極力さけることとしました。

それでは、まちづくりの柱となる六大政策の実現について、主要事項を説明します。

55年度の市政運営方針

観光・工 「計画実

一、明るい地方自治で 市民生活を築く市政

職員資質の向上

市民に信頼される市役所づくりのため、道立自治研修所の活用、近隣三市との共同研修への積極的参加などを今年度も引き続き実施します。

市政十周年記念式典

市民まつり、総合スポーツ祭、地獄まつりや登別漁港まつりなどの各種市民的行事の関連の中で、さまざまな記念式典を行ない、市の発展と市民相互の連帯を祈念し

広聴広報活動の検討と実践

市民が気軽に市政に参加できる「私の声を送る月間」など、地方の時代にそくした、市民相互の心

がふれあうような街づくりを展開します。



昭和45年の市政施行記念式典

図ります。
●国民健康保険の助産費の給付 現行六万円を八万円に増額します。

交通事故防止対策

●交通安全施設の整備拡充 中央通り外二路線の歩道舗装を実施するとともに、信号機・横断歩道などを整備拡充します。

消防体制の強化

●消防職員を増員します。
●小型動力ポンプ積載車を購入し高台および路地地域などの初期消火に備えます。
●富士派出所を新築します。

●防火水槽、消火栓の設置は、年次計画にもとづいて予算を計上しました。

物価安定対策

●消費生活相談員を新設 今年度市役所内に配置します。
●市民生活安定条例の制定 行政と商業関係者、および消費者の役割の明確化、消費生活安定審議会を設置などを盛り込んだ条例について、今議会に提案しました。

警察署の設置

昨年九月北海道議会に正式に請願をし、運動中です。平和な街実現のために是非必要な機関です。ので、引き続き努力します。

二、市民の健康と 暮しを守る市政

老人対策

●老人福祉センターの建設 健康で生きがいのある社会生活を営んでいただくため、富士町レクリエーションセンター跡に建設します。五十六年度オープンを目指し、内部には八十四畳の大広間をはじめ、娯楽室、浴室などを設置します。
●老人一日湯治 今年も継続して実施します。
●憩の家の増改築 本年度三カ所の整備を行い、今後も年次計画で整備充実を図ります。

体の不自由な人へのための対策

●身体障害者福祉専門員 市役所内に配置するよう、有資格者の確保に努力しています。
●障害児のための養護学校の設置 引き続き国・道に強く働きかけていきます。
●障害者雇用 今年度から一般職採用にあたり

母子対策

●児童館運営の充実 カギッ子対策のため児童厚生員の勤務日を全日制とします。

医療問題

●眼科・耳鼻科の設置 医師の確保に非常に困難性がありますが早期解消を図ります。
●休日の救急歯科診療 実現に今一步の努力が必要です。
●ガンその他成人病対策 保健婦を中心として保健指導の強化を



健康を守るために、体と心の豊かさをめざして

松本市の環境改善の取り組み

三、住みよい生活環境づくりの市政

水資源開発調査

将来の水需要の増大に対処するため、今年度も三河川の調査を行ないます。

地熱開発

カルルス地域が有望との結論を得ましたので、その開発を引き続き国・道に要望し、実現に努力します。

幌別地区

今年度新たに調査予算を計上しました。可能であれば付近公共施設の温水や暖房などに利用します。

都市機能の整備

国道三十六号線 市内四車線拡幅については、海岸線ルートとの決定と早期着工に一層努力します。

室蘭上登別線他、道々の整備

早期完工と計画推進について、国・道と積極的に協力の上、促進します。

市道の舗装 排水整備 登別海岸通り舗装のほか市内全域で実施するとともに、常盤通り改良事業、カルルス線など、補助事業の増進を図ります。

堤防敷地併用道路の舗装事業

市街地河川来馬川、登別川、鶯別川について、今年度から年次

計画で実施します。

市道昇格基準を改正 行きどまり私道などの昇格を行ない、市街地内の環境整備を促進します

障害防止対策事業

来馬演習場 周辺砂防ダム、幌別駐屯地周辺 棧橋式放流工を今年度も継続して実施します。

河川の改修事業

上鶯別地区の東橋を架け替え 室蘭市と協力し、国の補助事業で永久橋に架け替えます。

公共下水道

来年度着工を目的に事業認可策定費を計上しました。関連する鶯別都市下水路整備事業を継続して実施します。

公園設置・緑化事業

児童公園 上鶯別東部区画整理内に新設します。

ダム下運動公園の周辺整備

市民の森の緑化整備を重点に、市内の緑化を推進します。

公営住宅の建設

新生町に二棟二十四戸を建設し 年次計画で四棟九十六戸の団地に造成していきます。

宅地造成

若山町二丁目宅地造成を実施し、七十五区画の主として勤労者向け一般宅地の解放を行ないます

水道施設

給水区域および給水人口の増大

に対処するため、昭和五十六年度完成を目前に、登別上水道第一期拡張事業に着手します。

幌別駅周辺整備

市民要望に応え、自転車置場を設置するとともに、東口駅前広場を整備します。

尿貯留槽を新設

尿量の増大に対応するため、四百キロリットル一槽を設置します。

市内交通便利

鉦山町に市営バス 市唯一の過疎地域鉦山町に、生活市営バスを運行します。

富浦霊園臨時バス

昨年度に引き続き実施します。

市内循環バス

引き続き関係会社と協議を進め、早期実現に努力します。

小・中学校

学校の施設格差の解消を重点に、古い校舎の大改修を実施するよう予算を計上しました。

西陵中に二教室を増築します。

新設中学校建設のための敷地造成 近い将来、鶯別中学校分校によるものです。

四、人間性豊かなたくましい人づくりをすすめる市政

社会教育

市民センターの設計 今年度設計費を計上、五十六年度着工に向けて最善の努力をします。

生涯教育の推進

今年度から老人大学、婦人大学教室を開校します。札幌交響楽団のコンサート、全国社会教育委員研究大会などを開催します。

スポーツ振興・青少年対策

屋内水泳プールを建設 総合体育館横に二十五メートル、八コ



緑があふれ、安らぎを感じるまちのほりべつを目指して

イスのプールを建設します。

- 郷土資料館を建設 幌別ダム下運動公園計画の一角に建設、風雪百年余に耐えた先人の遺品、文献などを陳列保存し、青少年をはじめ広く市民に開放します
- 野球場二面を新設 登別市清掃工場横に設置します。
- スポーツ大会に助成 第三十五回国体陸上競技北海道大会予選

五、企業と雇用の安定拡大をはかる市政

広域行政の推進

当市の現状は、勤労者の大部分は室蘭市に職場があり、商工業などもまた室蘭経済圏の中にあるというように、行政面からも、経済面からも、たがいに深いかかわりがあります。

このような現実から、企業を守り、雇用の安定を図るには、両市提携の広域的見地から対処しなければなりません。

昨年から広域的視野に立った協議を進め、今年度から室蘭、伊達登別三市共同による広域企業誘致運動を進めるよう準備を始めており、これに必要とする予算を計上しました。

依存都市としてではなく、当市は、各市なりの整備を図り、自立都市への転換が必要となります。

- 幌別工業団地 早期立地と創業の促進に努力します。
- 大学等誘致 職場の拡大、購買力の拡張という見地からも、積極的最善の努力を傾注します。
- 中央地区買物駐車場を新設 購買力の管外防止と大型店進出に対応するとともに、消費者の利便を図るため、収容五十台の駐車場を設けます。

会、第十一回北海道中学生バドミントン選手権大会、第三回登別市総合スポーツ祭などに、それぞれ必要な予算を計上しました。

この地点は当市商店街の中心にあり、今後の需要に応じ、高層化、多目的に利用することができ、将来、中央商業地区のセンター的役割をはたす施設になることができると期待しています。

- 商工業の振興 商工会議所の増改築事業に対し助成します。
- 中小企業特別融資制度 一層利用しやすく、効果の上がる制度に改め、市内中小企業者の利用



長引く不況の中でも、街に活気があふれ、誰もが安心して働ける都市の建設をすすめます。

- 勤労者特別融資積立金 増額計上しました。
- 雇用対策支援事業 季節労働者や一般失業者対策として、昨年度に引き続いて実施するよう、通年予算を計上しました。

六、自然と観光と産業を育てる市政

観光対策

● 登別温泉 開発調査のおおむねの結論を得ましたので、今年度は、道路駐車場など、主として公共施設の整備促進に向けて、国や道に働きかけ、実現に努力します。

今年度はこれに関連し、民間の資本の投下を必要とする、市

街地内の整備計画立案のための調査を実施し、官民併行の開発計画を樹立します。

● 新登別地区 昨年度現況測量の調査を実施しましたので、今年度はさらに現状をふまえた排水系統対策や開発手法などの調査を行ない、開発計画の結論を出す考えです。

- カルルス温泉 国設スキー場、将来の整備拡張計画樹立のための調査費を計上しました。
- 一次産業の振興 農業、畜産振興対策
- 草地改良事業を進めるため、その助成費を計上しました。

▽ 広域行政の中で、圏域内に近代的な設備の「と畜場」の新設を図るなど、農家経営の安定に努力します。

▽ 札内地区の道路交通体型的確立を図るため、道々上登別室蘭線市道カルルス線、他の整備促進を図ります。

▽ 札内地区の一部に大学などを誘致し、良好な環境を生かした学園と農業の併立による、地場生産物の消費直結や労働市場の確保など、土地利用の有効活用を図ることに、地域の振興に最善の努力を傾注します。

- 漁業対策
 - ▽ 登別漁港外港の早期完成を引き続き国に要望します。
 - ▽ 船塢場新設事業、製氷冷蔵施設設置事業に対して補助予算を計上し、生産と流通が両立した漁業基地としての整備を進めます
 - ▽ 小型漁船レーダー機器設置事業 ほつき稚貝等移植放流事業に対しても、引き続き助成を行ない海難事故防止と沿岸漁業の振興を図ります。



観光と、種々の産業が活気づく、自然環境と調和した開発をすすめていきます。

の建設を

●川上公園周辺整備事業 300万円
レークハウス横に、収容台数50台の駐車場を設けます。

●鷺別都市下水路整備事業 1億6,000万円
上鷺別東部地区の都市下水路の整備を行ない快適な環境づくりを年次計画で実施します。

●梶別駅前周辺整備受託事業 1,000万円
住民要望の強かった梶別駅前の整備を実施します。振興公社の受託事業として西口と東口に屋根付きの自転車置場を設置するとともに、東口前広場を整備します。



整備される梶別駅東口前

●公共下水道事業認可策定費 1,200万円
長年の懸案でした公共下水道は、56年度着工を目前に、今年度は第1期事業（中央町、富士町、新川町全域）の認可策定を行ないます。

●公営住宅建設事業 2億2,174万円
新生町2丁目に鉄筋コンクリート4階建て1棟24戸（3DK）を建設します。今後も年次計画で整備を進め、四棟96戸の団地に造成していきます。

消防費

●富士分遣所および待機宿舎建設事業 1,450万円
老朽化した富士派出所を、富士町7丁目1番地富士郵便局横に設置します。

教育費

●公立学校共済組合住宅建設事業（事務費） 350万円
公立学校共済組合の資金を活用して、登別本町3丁目、登別東町4丁目、常盤町3丁目に合わせて32戸の教員住宅を建設するための事務費です。

●西陵中学校校舎増築事業 3,700万円
不足教室を補うため、普通教室2室を増築します。

●郷土資料館建設事業 9,000万円
先人の遺品や文献などを陳列保存する郷土資料館を運動公園として計画している梶別ダム下の一角に建設します。

この郷土資料館は、鉄筋コンクリート3階建、延べ面積524㎡。展示、収蔵のスペースを十分に取り、3階は展望室にする予定です。最大の特徴はその外観で、梶別開拓の基礎を築いた旧片倉藩の居住でした、白石城をモデルにする計画です。

●市民センター建設設計費 1,000万円
56年度着工を目指し、今年度は設計を委託します。

●鷺別中学校分教場敷地造成受託事業 3,700万円

●鷺別中学校分教場敷地造成事業 800万円
富岸地域の中学生生徒増加に対応するため登別職業訓練センターの山側に中学校を新設するよう、今年度は振興公社からの受託事業と合わせて造成工事を行ないます。

●登別市民水泳プール新設事業 7,000万円
若山町の市総合体育館横に、上屋付きの市民プールを建設します。プールの規模は幅17m、長さ25mで、8コースとることができま



郷土資料館のモデルとなる、白石城の雄姿

●野球場新設事業 500万円
登別市清掃工場登別側の隣接地に野球場2面を新設します。バックネットなどを設け、朝野球などを始め、市民が気軽にスポーツを楽しめる運動広場として利用していただきます。

水道事業会計

●新生町5丁目配水管布設替 1,074万円
鉄さびによる赤水を防止するため、総延長533mにわたり配水管を取り替えます。

●登別上水道第1期拡張事業 3億円
市内全域の水需用に対応するため、梶別上水道の水道施設を拡充するとともに梶別、登別温泉、鷺別の3上水道を統合し、登別上水道として1本化します。

昭和55年度 一般会計予算款別前年度比較表

(歳入) (歳出) (単位千円)

款別	本年度予算額		前年度予算額 (6月補正後)	比較増減	前年度伸率	款別	本年度予算額		前年度予算額 (6月補正後)	比較増減	前年度伸率
	予算額	構成比					予算額	構成比			
1. 市 税	2,594,000	24.1	2,283,000	301,100	13.1	1. 議会費	112,000	1.1	89,700	23,000	25.7
2. 地方譲与税	100,000	1.0	90,000	10,000	11.1	2. 総務費	867,300	8.3	733,800	133,500	18.3
3. 職業施設 利用税交付金	1,700	0.0	3,700	△2,000	△54.7	3. 民生費	2,700,200	25.7	2,275,800	424,400	18.6
4. 自動車取得 税交付金	67,200	0.6	58,000	9,200	34.4	4. 衛生費	194,370	1.9	183,470	11,000	6.0
5. 国有財産 管理費等交付金	500	0.0	0	500	10.4	5. 労働費	329,170	3.1	293,900	35,270	11.9
6. 地方交付税	2,079,000	19.7	1,984,170	94,830	4.7	6. 農林水産業費	71,327	0.7	56,000	15,327	27.5
7. 交通安全対策 特別交付金	1,000	0.0	0	1,000	0	7. 商工費	403,130	3.8	383,822	19,308	5.1
8. 分担金及び 負担金	36,110	0.3	36,000	110	31.8	8. 土木費	1,302,850	12.2	1,337,870	△35,020	△2.6
9. 使用料及び 手数料	382,000	3.6	227,300	154,700	32.7	9. 消防費	66,152	0.6	37,172	28,980	77.8
10. 国庫支出金	2,175,100	20.5	2,188,370	△13,270	1.3	10. 教育費	824,900	7.9	1,000,310	△175,410	△17.5
11. 道支出金	344,000	3.3	244,450	99,550	40.7	11. 災害復旧費	32,000	0.3	0	32,000	100.0
12. 財産収入	22,000	0.2	13,500	8,500	63.0	12. 公債費	1,048,400	10.0	823,122	225,278	27.4
13. 寄附金	19,520	0.2	56,520	△37,000	△65.5	13. 給与費	2,351,150	22.4	1,909,830	441,320	23.1
14. 繰入金	623,500	5.9	529,500	94,000	17.8	14. 子備費	10,000	0.1	5,000	5,000	100.0
15. 繰越金	30,000	0.3	136,200	△106,200	△78.0						
16. 諸収入	1,612,000	15.3	1,339,800	272,200	20.4						
17. 市 債	690,000	6.5	477,000	213,000	44.7						
歳入合計	10,500,000	100.0	9,539,300	960,700	10.2	歳出合計	10,500,000	100.0	9,539,300	960,700	10.2

55年度 主な事業の あらまし

不況に強い 複合都市

昭和55年度 登別市会計予算総括表

(単位 千円)

会計区分	昭和55年度 予算額	昭和55年度6月 補正後予算額	比較増減	伸率	
一般会計	10,509,000	9,539,369	969,631	10.2	
特別 会計	国民健康保険	1,570,071	1,233,768	336,303	27.3
	観光事業	82,724	89,614	△6,890	△7.7
	学校給食	396,119	333,424	62,695	18.8
	区画整理	525,813	640,738	△114,925	△17.9
	小計	2,574,727	2,297,544	277,183	12.1
合計	13,083,727	11,836,913	1,246,814	10.5	

区分	昭和55年度 予算額	昭和54年度6月 補正後予算額	比較増減	伸率	
水道事業会計	収益的支出	273,155	300,063	△26,908	△9.0
	資本的支出	507,843	231,400	276,443	119.5
	計	780,998	531,463	249,535	47.0

昭和55年度の予算案は、3月3日から開会された第1回定例市議会で審議されました。

本年度予算は、複合都市建設の初年度として「心のふれあう福祉の充実」「生活環境と都市機能の整備」「教育・文化施設の整備」を最重点に予算を編成しています。

厳しい財政状況のなかで、健全な財政運営に努める一方、6月を目途に「長期財政計画」の提示を予定し、今年度を「財政再建の元年」として位置づけています。

この結果、一般会計予算案は105億900万円で、54年度6月補正後に比べて10.2%の伸びとなっています。また、特別会計、水道事業会計をあわせた全会計の合計は、138億6,472万円となり、54年度6月補正後に比べ伸び率は11%と、圧縮型予算となっています。

それでは、昭和55年度の事業予算の中から、主な事業内容をお知らせします。(金額はすべて、千円以下切り捨て)

総務費

●車両センター建設受託事業 2,800万円
現在、富士町にある旧飯庁舎を利用していますが、老人福祉センター敷地となるため、市のトラックなどを収容する施設として、幸町の登別市清掃工場前に振興公社の受託事業として建設します。

●市町村職員共済組合投資住宅建設事業 1億6,703万円
老朽化が著しい富士町の職員住宅を取りこわし、桜木町と片倉町に合わせて4棟24戸の職員住宅を市町村職員共済組合の投資住宅として建設します。

●幌別地区地熱開発調査費 200万円
地熱開発の可能性を調査するため、幌別地区を電磁波で調べ、地下の構造や温脈の有無熱蒸気帯の存在を確かめます。
幌別小学校のグラウンドの一角では、数年前まで温水がわき出していたこともあり、可能であれば市民プールや学校暖房などに活用されることとなります。



地熱開発で脚光を浴びている幌別小グラウンド

民生費

●老人福祉センター建設事業 2億3,300万円
お年寄りのふれあいと健康のための施設として、現在富士町7丁目にあるレクリエーションセンター跡に建てられます。
お年寄りが利用しやすいように鉄筋平家建てとし、広さは約1,000平方メートルで、来年度から利用できます。
男女別の浴場のほか、体の不自由な人も入浴できる傾斜つきの介護ぶろを設けるほか、娯楽室、健康相談室や機能回復訓練施設などを備え、特にお年寄りの健康増進に役立てていただきます。また、教養講座の開設、就業相談なども行なわれます。

農林水産費

●登別漁港製氷冷蔵施設設置事業補助金 420万円
登別漁港敷地内にある既存の製氷冷蔵施設では、氷の需要に比べられなくなったため、施設の増設整備にあたり、補助金を交付するものです。

商工費

●中央地区買物駐車場新設受託事業 1,000万円
中央町5丁目6番地、相生橋付近に買物駐車場を新設します。面積は、855㎡で普通車50台の駐車が可能であり、周囲にはネットフェンスを張るほか、照明灯2基と管理室が設

置されます。振興公社受託事業。

土木費

●市道舗装排水整備受託事業 2億2,800万円
今年度の市道の道路舗装は4,005m、排水整備を6,692m実施します。このなかには、市道昇格基準の改正にともなう袋小路の整備をはじめ、堤防敷地併用道路の整備などが含まれています。振興公社受託事業。

●東橋架替事業 7,000万円
室蘭東高校横に通じる東橋の架け替えを、国の補助事業として室蘭市と協力して行ないます。幅員9m50の永久橋になります。



永久橋に生まれ変わる、美園町の東橋

●ちびっこ広場造成事業 900万円
子どもたちの遊び場を確保するため、今年度は次の4カ所を児童広場として整備します。
緑町2丁目津村商店裏、富士町3丁目レハブ団地内、片倉町4丁目飯島宅付近、栄町2丁目町栄保育所横。

登別市の保育事業

ほぼ整う定員わく

三歳未満児にも十分な配慮

入所した当時は、玄関先で泣いて先生たちを困らせた子。その後行きたくないと思わなくなったことも、新入学を迎え、楽しい遠足やクリスマス会などたくさんさんの思い出を残して保育所を巣立っていききました。

そして、今年もまた新しいお友だちが入所してきます。

仕事を持つお母さんたちに代って、保育所はお子さんたちを安全に、楽しく遊ばせていきます。また保育内容の充実をめざし、あらゆる努力がなされています。

今回は、昨年四月に開所した栄町保育所を訪れ、保育所の一日を写真でまとめてみました。



自分の似顔絵、よくできましたね



たまには、先生を困らせることも

本市が昭和四十五年に市政を施行してから、今年でちょうど十年目になります。

この間の人口増加は著しく、その主な理由は、建築ブームにより宅地化が進んだことで、主に室蘭市からの転入による社会増です。

この結果、幼年人口が増加する一方、核家族化も進行してきています。

同時に、婦人の社会的活動が活発になるにしたがい保育所の需要も高まってきました。

十年前には、六保育所百五十七人の定員でしかなかったものが、いまでは、この四月に開所する幌別東保育所も含め十保育所、定員は八百四十人というように大きな伸びを見せています。

現在では、保育に欠けると認められる児童のほとんどが入所できるほどの施設は整いました。

保育所は、保育に欠ける乳幼児の保育を目的とした、児童福祉のための施設です。

保育所の半数にあたる五カ所の保育所（富士、鶯別、川上、栄町、幌別東）では、生後六カ月から入所できます。

また、父母の勤務状態などによっては、朝八時から夕方六時まで保育する用意もあります。

いすれにしても、乳幼児たちが昼間の大半をここで生活し、個々の子どもの欲求を満たしながら集団の生活を体験する場ですので、乳幼児が安定感をもって、十分活動できるよう、その心身が健全で調和のとれた発育が行なわれるような配慮がなされています。

ところで、保育所に勤務する職員は、四月二日開所の幌別東保育所を含め九十七人です。このうち、児童を直接みている保育士の数は六十九名。

国の基準ですと「保育の数は、乳児または満三歳に満たない幼児のおおむね六人につき一人以上、満三歳以上四歳に満たない幼児のおおむね二十人につき一人以上、満四歳以上の幼児のおおむね三十人につき一人以上」となっていますが、

本市では、特に三歳未満児については、国の基準を上回る保育士を配置して、乳幼児の保護と育成のために十分な配慮をしています。

また、毎日の給食は、市独自の制度として三歳児以上は給食センターを利用して主食をまかなっているほか、三歳未満児については保育所に一人ずつ配置した栄養士により献立が作られ、栄養必要量の確保と給食効果の向上のため、あらゆる創意工夫がなされています。

このほか、内科医や歯科医による検診も定期的に行なわれ、子どもたちの健康管理に努めています。

保育料の改定を……

保育所に入所されるお子さんの本年度の保育料の改定が、三月の議会に提案されました。

保育所は、もっぱら子どもたちのために保護者に代って保育を行なう施設ですので、所得の多少にかかわらず利用できます。

そのかわり、保護者とその利益を受ける限度で費用を負担する一という原則をご理解いただかねばなりませんし、保育所の運営には一般財源からの支出も多いので、納税者の理解、老人や心身障害者（児）など、他の福祉施策に対する費用負担とのつり合いといったことなどを考慮しなければなりません。

保育料改定のくわしい内容については、本紙四月十五日号でお知らせします。

春先の水辺は危険です

子供の遊び場に
気をつけましょう

暖かい日差しに誘われて子どもたちが水辺を求める季節になりました。

例年この時期には、子どもが川や池に落ちる水の事故が起きていますので、事故を防ぐためみんなで次のことに気をつけましょう。

▼川や池などは、雪どけで水かさが増して危険です。子どもが水辺に近寄らないよう、よく言い聞かせておきましょう。

▼家のまわりや通学路にも危険な場所が意外に多いものです。冬の間、雪におおわれて気がつかない池、用水路、排水溝、水たまりなど身近なところにも十分気を配り、金網、柵、ふたなどをしておきましょう。

▼幼児の事故のほとんどは、親がちっと目を離したすきに起きています。幼児を戸外で遊ばせるときは、必ず保護者の目のとどるところで遊ばせるようにしましょう。

▼危険な川や池などのそばで遊んでいる子どもを見かけたときは、安全な場所まで遊ばせよう注意をしましょう。



◀きょうの昼食はハンバーグ。「おいしい」と、思わず顔がほころびます



▲昼食を食べたら、みんなおひるね。疲れてみんなぐっすりです

▼遊んでばかりではないですよ。きょうは退所式の練習です——小学校へいっても、保育所のことわすれないでね

栄町保育所の1日 元気で遊んでいます



▲生まれてはじめての運動会、みんな最後までがんばりました



▲神社山へえんそくです。みんなでたべたキャンディー、とってもおいしかった



市内初の二階建保育所

幌別東保育所が開所

昨年秋から建設が進められていた、市内で十番目の市立保育所が完成し、四月二日に開所式が行なわれます。この保育所は、幌別町八丁目十七番地の幌別東小学校の隣接地に建設したもので、市内初めての二階建保育所です。

このため、道内他市町にある二階建保育所を視察し、不備な点や欠点といった問題について徹底して研究を行ない、避難用通路については特に余裕をもたせ、二階ベランダから砂場におけるスベリ台を設置しています。

また、児童が特に興味をもつ階段部分は、遊び場となるよう、ゆるやかに広くし、自由に落書きができるホワイトボードを設置したほか、二階におどり場を設け、らせんスベリ台を設置しました。

保育室や乳児室などは、南向きとして、日当りにについても充分配慮しています。

総工事費は、一億三千三十五万五千円、床面積は八百三十六平方メートルです。

収容定員は、三歳未満児二十人を含め百三十人で、職員数は保育九名など合計十一名となっています。

市では、今後も計画的に保育所の整備を図っていく方針です。

郷土史探訪

45

「波立つ川」

チウアシペツ（鷺別川）

水源は、鷺別岳から別川です。

登別の川を訪ねて

登別市内の海岸には、ランボック岬やフンベ山、鷺別岬などのように岬や小山があつて、その高台からのながめは格別です。

フンベ山のオクネヌサウン（古い幣場で山の西側にあつた）、ランボックの七曲り坂については幾度か紹介していますので省略しますが、鷺別岬の高台からは、海の色が白く波立つ海岸と、岬からランボック岬まで続く海岸平野と町並みのつらなり、さらに札内台地などの段丘や背後の鷺別岳、カムイヌプリ、来馬、オロフレ、タツタロー山などが一望され、室蘭側のイタンキヤトッカリシヨ、そして渡島半島にたつたる海岸や太平洋をのぞむ景色は、特に素晴らしいものです。

今から約百二十年前、北方警備のために幕府から命令を受けた南部藩は、出張陣屋をポロベケレオタ（室蘭市陣屋町）にきずいたとき、この鷺別岬にも遠見番所をつくり岬の頂上から沖を通る外国船の出没を見張り、厳重に警戒した場所でもありました。

鷺別神社の境内に遠見番所の説明板が立てられています。この鷺別岬の東北側の真下に川口をもち、鷺別岳のふところ深くに水源をもつて流れているのが鷺

別川です。

「鷺別」という地名の由来は、この鷺別川は、昔の川名からいうと、鉄道線路沿いに北東から流れてくるワシペツライバ（鷺別川の古川の口）と、サツテクワシベツ（やせ衰える鷺別川）の二流が主になっていますが、鷺別川の名称はどのような意味から名付けられたのでしょうか。

登別市内にある「わしべつ」という名前前のつくものは、鷺別岳（室蘭岳ともいう）、鷺別岬、鷺別川、鷺別町や上鷺別町、鷺別駅や小・中学校、ワシペツライバ、サツテクワシベツなどたくさんあります。

それだけに「わしべつ」という地名は、今から約百二十年前に松前藩が江戸幕府に献上した「元録郷帳」という記録と共に「元録御国絵画」に書かれていますから、非常に古い地名である訳です。

しかし「わしべつ」の語源、地名の由来がどうもはっきりしていません。

漢字の鷺別という文字からうける印象では、ベツ（別）は川という意味ですから「鷺の川」ということでしょうか、昔はこの辺に羽根を開くと二メートル程にもなる大鷺などがたくさんいたのか、また鷺別川上流の山頂に生息していたのか、と鳥の鷺に関係した地名の由来を思わせます。

実際に江戸時代の文献や明治になってから開拓使の発行した「北海道史」の四巻「地理戸口編」に「鷺別村は鷺別川の東にあり、南は海に面している。方言でカハリベツとよび、鷺の意味である。」と記されています。

また、磯部精一の北海道地名解にも「鷺別、カハリ・ベツト、鷺の川の意義なり」と書いています。

特に、昭和二十二年版「駅名の起源」には、「カバリベツ・鷺の居る川の意味である」とはっきり書いています。

このように、鷺と関係のある川の名として解釈されてきましたが、今日では否定されています。

石炭川という説もありました。次は、ハシユベツ（柴川）から「わしべつ」になったのだ、という説で「ハシ」はかん木の意味があります。

鷺別川から富岸にかけての鉄道の北側、現在の新生町や若山町はワ



鷺別川の川口

シペツライバ（現在の富岸川）が流れ、イワリカナイ・トフシナイと言われた沢水と合流して大湿地帯をつくっていました。

ハンノキ、ミズナラ、ヤチダモなど、湿原性の樹木が多い谷地でしたので、ハシユベツ、またはハシユベツから「わしべつ」の言葉になったのでしょうか。

しかし、ハシユベツは永田方正の蝦夷語地名解では、増毛の項で石炭川と訳していました。

わしべつが石炭川とよばれていなかったにもかかわらず「鷺別川」から石炭がでる」ということで明治政府にクラークやケブロンらと共に招待されて来道していた、米人地質学者ライマンが調査したところ、「室蘭近傍のワシペツ川口にあるという、煤炭を検査したがこれは難波汽船の煤炭で、海岸に寄せられたものである」という事であったと片がつかまりました。

これは、明治六年のことです。

語源をさかのぼると、そして今日「わしべつ」の地名の由来を定着したのが、知里博士の「チウ・アシ・ベツ」です。

が少し高い時など、今でも波が川口に入りこんでおり、「波立つ川」の「わしべつ」の語源もわかります。

くわしく知りたい方は、山田秀三先生の「登別・室蘭のアイヌ地名を尋ねて」を読まれると、別の角度からよくわかると思います。

昔は、川口まで船が入った現在の鷺別川は、流れの形も随分と変り、水の量も少ない川になりましたが、明治時代までの鷺別川は富岸川と合流していましたが工業用水や飲料水として取水して

いないので水の量も多く、川岸は深い草や林におおわれ川口も深く本州方面からくる百石積（約七トシ）以上の弁財船が川口に入ったという言い伝えがあります。

鷺別川の川口から鷺別駅にかけて現在は護岸も整備されましたが特に鷺別町二・三丁目土地が低く、川は大きく蛇行していました。鉄道の下を流れる鷺別川の鉄橋も今は駅に近いところにあります

が、川の流れない昔の鉄橋だけが駅から遠い所に残されています。

青少年の健全育成を

はかりまじよう

登別市青少年問題協議会（会長中浜元三郎）では、青少年の健全な育成のために、青少年対策推進目標を次のとおり設定しました。みなさんがこの主旨をご理解くださいますと、家庭、学校、職場地域社会の場で、青少年健全育成のために、一項目でも推進いただくよう、ご協力をお願いします。

- ▽青少年の社会参加の促進
- ▽青少年の団体加入と活動の促進
- ▽グループ・サークル活動の育成と交流会の奨励
- ▽青少年の学習機会の拡充
- ▽他市町村との交流会の促進
- ▽青少年をとりまく環境の充実
- ▽あかるい家庭づくり運動の推進
- ▽あかるい職場づくり運動の推進
- ▽地域環境浄化運動の促進
- ▽健全育成のための地域連帯意識の促進
- ▽非行防止活動の促進
- ▽指導体制の充実
- ▽有志指導者の発掘と相互連携の促進
- ▽青少年リーダーの養成
- ▽研修体制の確立
- ▽専任指導員および専門職員の配置
- ▽地域PTA活動の推進
- ▽関係機関との連携および情報交換
- ▽余暇の活用と青少年施設の実施
- ▽体力づくりの促進
- ▽文化活動の促進
- ▽施設設備の充実

国民年金の保険料が改定されます

国民年金の保険料が、四月から一月九千七百七十円（五十四年度は三千三百円）に改定されます。国民年金は、給付費の三分の一を国が負担していますが、毎年のように高齢年金を始めとして、各

小・中学生の就学援助を 実施しています

市では、昭和五十五年度においても経済的に困りのお困りのご家庭の小中学生・中学生のために、就学援助をおこないます。

- ご希望の方は、就学援助費用申請書（用紙は学校にあります）に記入の上、必要な証明書などを添えて四月二十一日までに、在学する学校に提出してください。
- 援助の対象は、おおむね次のとおりです。
 - 生活保護法で、保護を停止または廃止された場合。
 - 各種税金のなかで、非課税、減免、免除のいずれかに該当した
- 長期の病気や事故、災害などで経済的に困っている場合。
- その他、特別の事情がある場合。
- 援助の対象となる主な内容
 - 学用品費
 - 通学用品費
 - 校外活動費
 - 新入学生児童・生徒学用品費
 - 修学旅行費
 - 通学費
- 申請書に添付する証明書
 - 給与所得の源泉徴収票、または所得証明書（昭和五十四年一月～十二月まで一年分）を申請書と一緒に在学する学校に提出してください。

項目	証明書の内容
市民税が非課税となった	市民税非課税証明書
市民税が減免された	市民税減免通知書など
個人事業税が減免された	個人事業税、納税額、移動通知書
固定資産税が減免された	固定資産税減免通知書など
国民年金が免除された	国民年金保険料免除申請承認通知書
国民健康保険料が減免又は徴収が猶予された	国民健康保険料更正通知書、国民健康保険料徴収猶予承認通知書
世帯更正資金の貸付を受けた	世帯更正資金貸付決定通知書

※上記の項目に該当する方は、証明する書類いづれか一通を申請書と一緒に在学する学校へ提出して下さい。

国民健康保険料

家族みんなの健康を守ります

〈保険料を滞納すると〉
保険料は、いまさら言うまでもなくみなさんが病気やけがをしてお医者さんにかかったときの医療費にあてられます。

もし保険料の支払いが遅れたりどこにおつたりすると、お医者さんから請求された医療費の支払いができなくなるばかりか、国保の運営までおびやかされることになり、それは、とどのつまり、みなさんの健康を守ることに支障をきたすこととなります。

昭和五十四年度の国民健康保険料を納めていない方は、至急納めましょう。

都合で、保険料をなかなか納められない方は、四月七日～二十五日まで実施される保険証検認事務の席で納入を受け付けますのでご利用ください。

危険物取扱者試験が実施されます

乙種第四類と丙種の試験が五月二十五日（日）、室蘭市で行なわれます。

願書の受け付けは、四月十四日から二十六日までとなっています。詳しい事は、消防本部予防係（5局2551）または最寄の消防支署にお問い合わせください。

学校めぐり 12

ひらかれた学校めぐり

幌別中学校



幌別中は市内で最も古い中学校の一つです。昭和二十二年、幌別小学校の教室を借りて七学級で開校し、現在地に移転したのは四年後の昭和二十六年のことです。

その後、生徒数が増加し、ピークの三十九年には千四百五十人を数え、これまでに九千人を超える卒業生を出しています。

昭和四十九年に西陵中から分離し現在は幌別小、幌別東小の校区から五百四十五名の生徒が通学しています。



父母約六十人が参加して行なわれた
昨年の前庭整備作業

同校の教育目標は、学習指導要領の改正に基づく、「知・徳・体」の調和のとれた教育」にあり、人間性豊かな生徒の育成と地域にひらかれた学校づくりを目指しています。

昨年四月に、西陵中から転任された安田麻夫校長は、「教室を回ると、生徒に言うのですが、清純な気持ちがある反面、もろさがある、もつとねばり強さ、たくましさ」を身につけてほしい。」また、校下の様子で「幌中の卒業生がそれぞれ社会的に重要な役割を持って活躍しており、新設校にはない伝統の重さをひしひしと感じています。」と、話してくれました。

校舎の前庭には、その歴史を物語るように樹齢数十年というオンコが植えられています。

昭和五十一年に新校舎が完成、昨年からは、豊かな環境をさらに自分達の手で作ろうと、校舎横に「憩の森」の造成を始めました。

ここには、果樹を植え、芝生を敷いて、自然に親しむ憩の場所にしたいと張り切っています。

ひらかれた学校を目指す同校では、昨年の学校祭で、行進行列を初めて実施、地域の心に響け込むとともに信頼される学校でありたいと願っています。

こうしたなかで、道徳教育には独自のユニークな方法を取り入れています。

毎週一回の道徳の時間にあわせて、月一回朝礼を行ない、校長先生の訓話を素材に再度各教室で話し合い、より内容を深める授業を行なっています。



昨年四月に、西陵中から転任された安田麻夫校長は、「教室を回ると、生徒に言うのですが、清純な気持ちがある反面、もろさがある、もつとねばり強さ、たくましさ」を身につけてほしい。」また、校下の様子で「幌中の卒業生がそれぞれ社会的に重要な役割を持って活躍しており、新設校にはない伝統の重さをひしひしと感じています。」と、話してくれました。

校舎の前庭には、その歴史を物語るように樹齢数十年というオンコが植えられています。

昭和五十一年に新校舎が完成、昨年からは、豊かな環境をさらに自分達の手で作ろうと、校舎横に「憩の森」の造成を始めました。

ここには、果樹を植え、芝生を敷いて、自然に親しむ憩の場所にしたいと張り切っています。

ひらかれた学校を目指す同校では、昨年の学校祭で、行進行列を初めて実施、地域の心に響け込むとともに信頼される学校でありたいと願っています。

こうしたなかで、道徳教育には独自のユニークな方法を取り入れています。

毎週一回の道徳の時間にあわせて、月一回朝礼を行ない、校長先生の訓話を素材に再度各教室で話し合い、より内容を深める授業を行なっています。

※全校クラブによる活動に加えて、バレーボール・卓球・バドミントン部なども盛んで、一年をとおして体育館が空いていることはないという事です。

なかでも女子バレーボールは、昨年全道のベスト八に入るなど、かつての伝統を思わせる活躍を見せています。

PTA活動では、三年前に行なわれた、三十周年行事を境に盛り上がり、植樹や花壇の造成など奉仕作業にも熱心です。今年度はPTA連合会の当番校にあたり、その飛躍が期待される所であります。

昨年の学校祭で行なわれた
行進行列の様子

胃腸病検診を

お受けください

市では、年々増加する胃がんなどの早期発見のため、今年も次の日程で胃の検診を行います。

この機会を利用して受診し、自分の健康を確かめてください。

日程の都合上、定員になり次第受付期間内でも締め切りますので早めにお申し込みください。

▽受付期間 四月一日～十五日

▽対象者 満三十五歳以上（ただし、両親、近親者にかんなどの疾病がある方は満三十歳以上）

▽検診料

- ・ 社会保険など一般：二千六百元
- ・ 国民健康保険：七百八十円（満七十歳以上の方は五百四十円）
- ・ 生活保護受給者および満七十歳以上：三千八百円

▽申し込み先 市保健衛生課（電話5局2111内線250）お

よび各支所

※検診の受付時間は、いずれも午前七時三十分から九時三十分まで定員は、それぞれ百名です。

胃検診日程

実施月日	実施場所
4月25日	中央公民館
4月26日	〃
4月27日	登別公民館
4月28日	鷺別公民館

赤ちゃん相談（三カ月児）

▽内容 医師による診察、計測、生活指導、栄養指導

街をきれいに

街に汚れたゴミステーションが



清掃できれいなステーション

並んでいたのでは、美しい街も泣いてしまいます。

ゴミステーションは、みなさんで協力し合って、きれいにし、気持ちよく利用したいものです。



迷惑な汚いステーション

二歳児歯科検診

▽用意するもの 母子健康手帳、換えオムツ、バスタオル

▽日程

- ・ 4月16日：中央公民館（受付11時15分～11時30分、対象／幌別地区の昭和55年1月出生児）
- ・ 4月17日：鷺別公民館（受付／11時15分～11時30分、対象／鷺別地区の昭和55年1月出生児）

▽注意するもの 母子健康手帳、換えオムツ、バスタオル

▽日程

- ・ 4月16日：中央公民館（受付11時15分～11時30分、対象／幌別地区の昭和55年1月出生児）
- ・ 4月17日：鷺別公民館（受付／11時15分～11時30分、対象／鷺別地区の昭和55年1月出生児）

▽内容 歯科医師、歯科衛生士、保健婦による二歳児歯科検診を実施します。

▽対象者 昭和52年10月1日から昭和53年3月31日までの出生児

▽持参するもの 母子健康手帳、現在使用している歯ブラシ

無料法律相談

日常の生活の中で、交通事故、土地家屋、金銭貸借、損害賠償相談、離婚、公害など、あなたの身の回りに起きた法律問題でお困りの方は、この法律相談をご利用ください。

▽日時 四月五日（土）

午前九時～十二時

▽場所 中央公民館 和室

▽担当弁護士 塩谷 栄道氏 山本 松夫氏

※相談を希望される方は、あらかじめ公聴広報課にご連絡ください（電話5局2111内線222）

国鉄からおねがい

置石、置物、線路立入りなどの鉄道妨害は、長い冬から解放された今頃の季節から多くなります。事故防止のため、次のことに協力ください。

- 子供さんを線路や線路付近で遊ばせないよう、またこのような子供さんを見かけたら、直ちに注意して安全な場所まで遊ばせてください。
- 踏切内で万が一止ったときは、直ちに踏切に設置してある踏切支障報知装置の「押ボタン」を押して、列車を止める手配をしましょう。
- 「さきづまり」しているときは、踏切手前で待ちましょう。
- 「すれちがい」の列車に注意しましょう。
- 野や山が緑へと色づいてきますと、いよいよ行楽のシーズンです。魚釣り、山菜取り、登山など国有林に入林される機会が多くなりますが、ちょうど、この季節は山火事の発生しやすい時期でもあり、また、最近ではクマが出没しているようでもあります。



燃やすまい みんなが来る山 歩く山

室蘭営林署

※ 踏切支障報知装置を使用したり、通行することは非常に危険です。大人も子供も必ず正規の踏切を通りましょう。

「ドライバーのみなさんへ」

踏切を通行するときは、事故を起さないよう、次のことに注意しましょう。

- 必ず一時止って左右の安全を確認しましょう。
- 列車が近づいて来ているのに無理な直前横断は絶対やめましょう。
- 「さきづまり」しているときは、踏切手前で待ちましょう。
- 「すれちがい」の列車に注意しましょう。

踏切支障報知装置のない踏切では、車に備え付けの発煙筒や赤色旗を使用して列車を止めてください。

いずれの方法でも列車を無事に止めた場合は、損害金など一切いただきません。

行楽のために入林されることは次のことがらを守りましょう。

- ▽ 国有林に入林するときは、最寄の営林署、担当区事務所などに立寄り入林者名簿に記入し、クマについての情報などを聞いてから入林してください。
- ▽ 入林するときは、二人以上で行き、一人歩きはやめましょう。
- ▽ タバコ、たき火など火の扱いに十分注意してください。
- ▽ 林道などを歩行するとき、なだれ、崩落などに注意し、危険区域などを確認したら、近よらないようにしてください。
- ▽ このような危険カ所や、ヒグマに出あったりした時は、下山後営林署か担当区事務所にお知らせください。

不用品ダイヤル市

5局2111
内線 257

おわけします（売り）

エレクトーン、冷蔵庫、温風式石油ストーブ、足踏式ミシン、スキー靴（22・5、24、24・5cm）柔道着、スキー（180cm）、ガス台安全靴（25・5cm）、健康ぶらさがり器、美容健康器具スタイラー、二段ベッド

ゆずってください（買い）

ベビーベッド、シングルベッド、ダブルベッド、子供用食卓イス、うば車、ゆりかご、子供用自転車、婦人用自転車、ピアノ、カラーテレビ、加湿器、ポータブル石油ストーブ、シルバーあみ機、ハーフスケート（19cm）、二段ベッド